

地区別人口および世帯数についての概要

- 1 市人口を地区別にみると、犬伏地区が1万8589人（市全体の15.3%）で最も多く、次いで植野地区が1万6010人（同13.2%）、佐野地区が1万2568人（同10.4%）となっている。一方、氷室地区が920人（同0.8%）と最も少なく、次いで野上地区1,157人（同1.0%）、戸奈良地区1,216人（同1.0%）となっている。
- 2 平成17年から22年の人口増加数をみると、界地区が677人（増加率11.0%）と圧倒的に多く、次いで植野地区52人（同0.3%）、堀米地区44人（同0.4%）となっている。また、人口増加率をみると、界地区が11.0%（677人）と最も高く、次いで栃本地区1.7%（35人）、田沼地区0.4%（35人）と続いた。市内20地区中5地区で増加となっている。
一方、人口減少数をみると、葛生地区が581人（減少率7.7%）と最も多く、次いで赤見地区569人（同5.4%）、犬伏地区485人（同2.5%）となっている。また、人口減少率をみると、氷室地区が16.1%（176人）と最も高く、次いで戸奈良地区10.2%（138人）、野上地区9.8%（125人）と続いた。市内20地区中15地区で減少となっている。
- 3 人口密度を地区別にみると、人口密度が最も高いのは佐野地区2,994人であり、次いで田沼地区2,619人、堀米地区2,523人となっている。一方、人口密度が最も低いのは氷室地区および野上地区の22人であり、次いで飛駒地区26人となっている。
- 4 年齢（3区分）別人口割合を地区別にみると、15歳未満の人口の割合が最も高いのは堀米地区15.7%（1,900人）であり、次いで、犬伏地区14.4%（2,667人）、植野地区13.8%（2,196人）と続いた。一方、15歳未満の人口の割合が最も低いのは野上地区6.2%（72人）であり、次いで戸奈良地区7.9%（96人）、葛生地区9.3%（643人）と続いた。
次に、15～64歳人口の割合についてみると、界地区が67.2%（4,478人）と最も高く、次いで田沼南部地区65.6%（3,161人）、犬伏地区65.2%（1万2053人）と続いた。一方、15～64歳人口の割合が最も低いのは氷室地区52.6%（484人）であり、次いで、野上地区53.2%（616人）、葛生地区56.4%（3,900人）と続いた。

最後に、65歳以上人口の割合についてみると、野上地区が40.5%（469人）と唯一40%を越えて最も高く、次いで氷室地区37.9%（349人）、葛生地区34.3%（2,370人）と続いた。一方、65歳以上人口の割合が最も低いのは堀米地区19.5%（2,363人）であり、次いで、界地区19.6%（1,304人）、犬伏地区20.4%（3,762人）と続いた。

5 市世帯数を地区別にみると、犬伏地区が7,207世帯（市全体の16.0%）と最も多く、次いで植野地区が6,062世帯（同13.4%）、佐野地区が5,296世帯（同11.7%）となっている。一方、氷室地区が338世帯（同0.8%）と最も少なく、次いで戸奈良地区408世帯（同0.9%）、野上地区410世帯（同0.9%）と人口とほぼ同様の順位となっている。

6 平成17年から22年の世帯増加数をみると、界地区が558世帯（増加率23.7%）と群を抜いて多く、次いで植野地区が236世帯（同4.1%）、堀米地区が194世帯（同4.4%）となっており、市内20地区中12地区で増加している。一方、世帯減少数をみると、葛生地区が89世帯（減少率3.4%）と最も多く、次いで氷室地区34世帯（9.1%）、常盤地区14世帯（1.5%）となっており、市内20地区中8地区で減少している。

7 1世帯当たり人員を地区別にみると、吾妻地区が3.17人と最も多く、次いで常盤地区3.03人、新合地区3.03人となっている。一方、界地区が2.34と最も少なく、次いで佐野地区2.37人、犬伏地区2.58人となっている。平成17年と比べると、市内すべての地区で1世帯当たり人員は減少している。

町内別人口および世帯数についての概要

- 1 市人口を町内別にみると、堀米町が 9,580 人（市全体の 7.90%）と群を抜いて多く、次いで田沼町が 5,516 人（同 4.55%）、大橋町が 4,712 人（同 3.89%）となっている。常住人口 0 人である嘉多山町、長坂町、栄町の 3 町内を除き、人口の最も少ないのは、あくど町 10 人（同 0.01%）であり、次いで田之入町 67 人（0.06%）、庚申塚町 88 人（0.07%）と続いた。
- 2 平成 17 年から 22 年の人口増加数をみると、高萩町が 746 人（増加率 21.3%）と圧倒的に多く、次いで大橋町 314 人（同 7.1%）、赤坂町 217 人（同 8.9%）となっている。また、人口増加率をみると、高萩町が 21.3%（746 人）と最も高く、次いで赤坂町 8.9%（217 人）、若宮上町 8.5%（50 人）となっている。人口増加となっているのは市内 118 町内のうち、21 町内にすぎない。
一方、人口減少数をみると、石塚町が 272 人（減少率 6.2%）と最も多く、次いで富岡町 179 人（同 4.4%）、多田町 173 人（同 8.3%）となっている。また、人口減少率をみると、あくど町が 33.3%（5 人）と最も高く、次いで大蔵町 20.3%（24 人）、秋山町 19.3%（68 人）となっている。市内 118 町内のうち 93 町内で減少となっている。
- 3 人口密度を町内別にみると、人口密度が最も高いのは米山南町 7,216 人であり、次いで若宮上町 5,846 人、万町 5,713 人となっている。一方、人口密度が最も低いのは秋山町 8 人であり、次いで作原町 11 人、飛駒町 26 人となっている。
- 4 年齢（3 区分）別人口割合を町内別にみると、15 歳未満の人口の割合については米山南町 25.7%（359 人）が唯一 20%を越えており、次いで奈良渕町 19.6%（492 人）、関川町 18.3%（364 人）と続いた。一方、15 歳未満の人口の割合が最も低いのは、15 歳未満人口 0 であるあくど町を除き、大和町 2.1%（2 人）であり、次いで天明町 2.8%（5 人）、山菅町 3.0%（7 人）と続いた。
次に、15～64 歳人口の割合についてみると、北茂呂町が 73.5%（186 人）と最も高く、次いで吉水駅前三丁目 71.0%（196 人）、大橋町 70.3%（3,256 人）と続き、この 3 町内のみ 7 割を越えていた。一方、15～64 歳の人口の割合が最も低いのは、寺久保町 40.0%（142 人）であり、次いで高砂町 40.3%（142 人）、作原町 46.7%（170 人）と続いた。

最後に、65歳以上人口の割合についてみると、高砂町が55.1%（194人）となっており、次いで寺久保町53.5%（190人）、あくど町50.0%（5人）と続き、この3町内のみが5割を越えていた。ただし、高砂町には『介護対応型マンション 悠楓園』が、寺久保町には『介護老人保健施設 さくらの里』がそれぞれ含まれているためである。一方、65歳以上の人口の割合が最も低いのは米山南町7.7%（107人）であり、次いで吉水駅前三丁目13.4%（37人）、関川町13.9%（276人）と続いた。

5 市世帯数を町内別にみると、堀米町3,622世帯（市全体の8.02%）と群を抜いて高く、次いで田沼町が1,963世帯（同4.35%）、高萩町が1,961世帯（同4.34%）となっている。一方、あくど町が6世帯（同0.01%）と最も低く、次いで田之入町が26世帯（同0.06%）、庚申塚町が30世帯（同0.07%）と続いた。

6 平成17年から22年の世帯増加数をみると、高萩町が502世帯（増加率34.4%）と最も高く、次いで堀米町219世帯（同6.4%）、大橋町192世帯（同11.6%）となっており、市内118町内のうち53町内で増加している。一方、世帯減少数をみると、米山南町が53世帯（減少率9.7%）と最も多く、次いで多田町29世帯（同4.3%）、高砂町28世帯（同13.9%）、石塚町28世帯（同1.9%）と続いた。

7 1世帯当たり人員を町内別にみると、寺久保町が4.61人と最も多く、次いで菰川町3.56人、下羽田町3.50人となっている。ただし、寺久保町の1世帯当たり人員が多い理由としては、国勢調査において施設は1棟を1世帯と捉えるため、『在宅介護支援センター さくらの里』を2世帯（122人）と算出しているためである。一方、あくど町が1.67人と最も少なく、次いで、高砂町2.03人、朝日町2.07人と続いた。平成17年と比べると、ほとんどの町内で1世帯当たり人員は減少しており、増加したのは118町内のうち、わずかに8町内に過ぎなかった。